

インターバンクの声（2014年11月17日）

東京市場の終盤から116円台の半ば近くまで円売りが進んでいた金曜日のロンドン早朝のドル円相場だったが、先月に大きく落ち込んだ米小売売上高の10月分の発表を控えてか、円売りの動きは止まっていた。その心配された米小売売上高は、前月比0.3%増と市場予想を上回る水準に改善され、市場は円売り再始動となったが117円に乘せることはなかった。むしろこの後に発表された11月のミシガン大学消費者指数速報値が予想を大きく上回ったにも関わらず、米長期金利が低下傾向になっていたのがドル売りを促すことになったようだ。今週になっても全体の相場観に大きな変化はないと思われるが、今日帰国する安倍首相が、いつどのような形で解散・総選挙と消費税率10%引き上げ延期について語るのかが注目される。単なる発表に成り代わってしまった感もある第3・四半期の国内GDP速報値ですが、どのような数字なのか一応しっかり見ておきましょう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。